

## 編集後記

昨年、この編集後記を書いているときに、新型コロナウイルス感染症が世界的規模で脅威になりつつあったのが、1年経った今、さらにひどい状況になっているのは残念でなりません。この1年、私どもの音楽学コースが管轄している科目のほとんどが遠隔授業でした。Zoom やら Teams やらと真っ正面から向き合ったおかげで、高等教育機関における教育のあり方を再考できたと思います。

昨年8月の終わりに、榑崎洋子先生の訃報が届きました。榑崎先生は音楽学コース開設時から2005年3月まで専任教員として音楽学コースの発展に力を注いでくださいました。お悔やみ申し上げます。

本号が無事、刊行できたのは、編集実務を担ってくださった編集委員長の永井文音さんと編集委員の米山義則さん、山上千乃さんの献身的な働きによるものです。冒頭にも書きましたが、一日も早く平穏な日々が戻りますことを祈念します。(東谷護)

今年は新型コロナウイルスの影響で、大学にも気軽には来られない状況が続きました。そんな中でも無事今号を刊行することができたのは、東谷先生と、編集委員の米山さん、山上さんのお力添えがあってこそです。素敵な表紙絵をお寄せくださった小林先生、論文や報告を提出してくださった執筆者の皆さまにも、この場を借りて感謝を申し上げます。ありがとうございました。(永井文音)

「InDesignを自由自在に使えたら」という思いは実は以前からありましたが、図らずも大学の紀要編集で覚えることになるとは……教えていただいた永井さん、ありがとうございました。原稿と表紙絵をお寄せいただいた先生方、学生の皆さん、どうもありがとうございました。デジタルが幅を利かせ、コロナ禍で先が見通せない時代においても紙媒体がこれからも末永く存在し続けることを願って編集後記とさせていただきます。(米山義則)

今回初めて、ミクスト・ミュージズの編集作業に携わせていただきました。先生方、先輩方の大切な文章を扱うということで緊張もありましたが、無事やり切ることができました。永井先輩に頼ってしまった部分が多いですが、少しでも作業に携われて良い経験になったと思います。ありがとうございました。(山上千乃)